

協 議 会 議 事 録	
会議名	平成 21 年度 第 4 回江田島市公共交通協議会
日 時	平成 21 年 12 月 25 日 (金) 13 : 30~15 : 40
出席者	別紙出席者名簿
1 開 会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 議長の選任について	
事務局	野原委員を議長に選任
4 協 議	
(1) 交通空白不便地域モデル地区の選定について	
コンサル	資料 1 により説明
事務局	資料 2 により説明
議長	ご質問は。
委員	先ほどの説明で様々な問題解決策の案が挙げられていたが、便が増えれば利便性が上がるのは当たり前である。お金がこの程度かかるということセットで提示しなければ、意見を言いたい放題で江田島市がつぶれてしまうのではないかと。コスト面、技術面をマトリクス等できちんと整理すべきではないかと。
委員	契約の内容を確認する必要がある。業者との契約内容はどうなっているのか。
事務局	今回説明したのは、自治会分科会でアイデアをイメージして頂くための資料である。コスト等の話は今後、自治会等との議論の中で当然出てくるものである。
議長	自治会分科会の状況について、小方委員よりご発言頂きたい。
委員	第 2 回の自治会分科会で、示された通りの結論を得たところである。コストの面は、我々では検討していない。とりあえず資料に示されたモデル地区を当面、検討しようという結論に至っている。問題があるその他の地区についても、順次拡大を図って頂きたいと考えている。
議長	これについて、他にご意見等はないか。
各委員	(特になし)

第4回江田島市公共交通協議会（H21.12.25）

議長	それではこの2地区について、今後進めて頂きたい。
(2) 航路の合理化、効率化について	
事務局	資料3、参考資料1により説明
議長	ご質問や意見は。
委員	連携計画がどの程度踏み込んだ内容になるか、先に紹介頂いた方が良いのではないか。
事務局	またアイデアの段階であるが、次の議題で説明させて頂こうと考えていた。それらを含めて議論が必要であれば、先に説明させて頂く。
議長	次の議題も合わせて説明した方が良いのではないかとの意見であるが、委員の皆様はいかがか。
各委員	(異議なし)
議長	それでは、議題3についても先に説明して頂く。
(3) 江田島市地域公共交通総合連携計画骨子案について	
コンサル	資料4、資料5、参考資料2により説明
議長	海上分科会が開催されたということである。仁田委員から補足説明があれば頂きたい。
委員	<p>まず、前回の協議会を欠席したことをお詫びする。</p> <p>協会として、今回の協議会で考えるべきことが3つ程度あるように考えている。まず1つ目は、西能美航路の再編問題。2つ目は、個々の航路の実験。これについては先ほど参考資料にあったようなヒアリング結果を踏まえ、提案内容を精査する必要がある。3つ目は、島全体の活性化（定住人口、交流人口の増加）。これは、交通網が健全に発展していくための根本要因となる。そのあたりについて、協議会で施策をどこまで実施できるかが重要である。また、航路を考えるにあたって、共通して持っている不安が第二音戸大橋である。当初は有料との話であったが、無料になる見込みである。交通の流れが大きく変わる恐れがあるため調査が必要である。交通にどのように影響を与えるのか、今後の役割分担を含めて考えていく必要がある。</p> <p>西地区の航路の問題について、個々の事業者は意見を言いにくいように思う。よって今回は、旅客船協会会長の立場から、客観的な意見を言わせて頂いた。現在、中町・高田・三高の3つの栈橋を、民間と公共がそれぞれ大きな赤字を出しながらやっている。フェリー3隻、高速船2隻は客観的に見て供給過剰ではないかと思う。客観的には、フェリー2隻、高速船2隻程度が適当と思う。3つの栈橋をそれぞれの地区の住民が利用できるよう、バス等の接続を踏まえつつ、1つの母</p>

	<p>体で将来的には運航するのが望ましいのではないかと考えている。</p> <p>ただ、例えば民間に任せるとすると、住民には不安があるため、チェック機能等の仕組みづくりが必要である。市から役員の派遣等が考えられる。将来的には第3セクター等も考えられるが、PFI等を含め、民間で運営することが望ましいのではないか。ただ、この航路は非常に大きな航路であるため、運賃政策等に関して他の航路への影響も大きい。ここだけ運賃を安く設定すれば、場合によっては他の地区の航路が成り立たなくなる。地区住民にとっては安ければ安いほど良いであろうが、代わりに他の地区の航路がなくなっても良いのかということも配慮しながら経営をしていく必要があるという使命を持った航路である。協会会長としては、今の説明あったように方向性で民間1社がフェリー2隻、高速船2隻を市や市民の目を皆さんが納得できるかたちで運航していく。運営にあたっては市民や市のチェックを入れながら、皆さんの納得のいく仕組みができれば一番望ましいと思う。</p>
議長	<p>今、仁田委員より、現状や将来に向けてどのように対処すれば良いかを説明頂いたが、これについて何か意見はないか。</p>
委員	<p>今、説明された航路統合の内容は、簡単なようで非常に難しいように思う。三高～中町間のバスは非常にコストもかかる。</p> <p>能美町の住民として、譲ってもフェリーは高田から出して欲しい。そして市の企業局は存続させて欲しい。</p> <p>第二音戸大橋への影響については、既存の船会社に対して配慮が必要である。</p>
委員	<p>4町が合併して現在の江田島市になっている。今まで各町が運航していた航路を引き継ぎ合理化し、今後は市としての航路になっていく中で、いよいよこれから実証実験を行うのだが、この場で具体的などころまで何も決まらないのに、この会の中で意見が出た時、どのように市民に伝わっていくのかを真剣に考える必要がある。住民が混乱することを危惧している。</p>
議長	<p>ただ今の意見にあったように、意見が一方的に出ていることを十分に考慮する必要がある。</p>
委員	<p>この件について、合併前の旧4町のそれぞれ航路の実態が異なる中、三高港にフェリーを集約することについては、能美町の自治会連合会では様々な意見がある。特に既存の業者に委ねると、運賃の値上げ等、好きなようにされるのではないかという懸念が一番である。</p> <p>またフェリーが能美町からなくなると、高速艇で通院や通学をする必要があり、住民の負担が大きくなり、それに関する不安も大きい。</p> <p>沖美町の自治会からは、最終便の時間拡大等、市に要望が行われているところである。大柿町については、どちらに出ても航路があるため、</p>

	今のところ静観されている。能美町については、住民感情があるため、この再編案に賛成するのはつらいということをご理解頂きたい。
議長	船の合理化・効率化という面からの三高港に全てを集約するという案は無理があるのではないかとのご指摘であるが、他の港、町のこれまでの経緯等をどう勘案し、合理化・効率化をすれば良いのか、他に意見があれば伺いたい。総合連携計画の骨子案にからめた意見でも結構である。料金が非常に厳しい状況の中でコストの低減といわれてもかなり限界に来ているのが実状である。減船も必要であるが、そのためには港等の合理化も考えなければならない。新たに出来る第二音戸大橋の影響を含めて、何か意見はないか。
委員	<p>栈橋が近いからそこに住むという人がいる。栈橋がなくなるとどうなるか。ここで話をすることは簡単であるが、この問題は過疎に拍車をかけることになる。船が不便な地域に誰が住むのか。</p> <p>高速艇を使えば市内まで30分、40分あれば行ける。通勤圏内であり、座って新聞を読みながら行ける。それをもっとPRしても良いが、街の人には「島」という認識があり、少し抵抗がある。いろいろ提案され、「イメージです」と言われても、この「イメージ」は確かに良いが不安もたくさんある。旧町それぞれの問題については、その地域に住む人間にしか理解できない。何か言ってくれと言われても言えないし、また反対も賛成も言えない。今日は黙って聞いて帰ろうと思っていたが、このまま黙っていれば流れていってその方向性になってしまったら困る。同じ江田島市の中でも「大変なこと」はそれぞれ地域によって違うため、一度にやるのは無理ではないか。それを踏まえ、できることから1つずつやるべきではないか。時間が無いのに一度にやると無理がくる。そのとき修正できればいいが、修正できないまま進んでしまうと市民へのサービス低下などに繋がる。大変デリケートな問題であり、私が言うにはおこがましいようではあるが、島の状況はこういうことである。</p>
議長	各地域固有の事情があるということである。
委員	<p>観光協会長としてではなく、個人的な立場から言うと能美在住であるため、今の発言にほぼ同じ感覚である。</p> <p>船で通勤できることはステータスである。西能美は広島へのアクセスが命であり、もっと便利で安くするためにどうすべきかを考える必要がある。観光交流事業においても広島市との船の交通アクセスは非常に大事である。</p> <p>現在6社で運航しているが、仁田委員の言われるくらいの船籍数、便数（便数はもう少し増やしたい）は妥当であると思う。ただ、公営が非効率であるとは思わない。この航路は先人が作り守ってきたもので</p>

	<p>ある。投資もし、進化させ、高速艇を導入した。それに続いて民間各社も遅れを取らないようがんばってきた。そういった意味からも、公営船は大きな福音を与えてきた。非効率であると思うならもっと議論を尽くして、イメージを上げ、もっと島に人が来てくれるような魅力をどんどん出していくことを考えるべきである。「非効率だからやめる」、「民間に任せれば良い」というような無責任で投げやりな考え方では、島の将来の発展はないと考える。</p>
議長	<p>民間と公営、事業者同士が力を合わせて意見を交換し、より効率的、合理的な方法を取れば良いということであるが、では結論はどうかといわれると今、判断することは非常に難しい。ただ、現状が過剰供給であるという認識は共通しているようである。問題はその後どのようなかたちにしていくのかということ。しかも、地域的な利益を損なわないようなかたちで効率的な運営は可能なのか、そのあたりが一つの目安なのかと思う。それに対して何か意見はないか。</p>
会長	<p>確かに歴史的な役割は非常に大きかったと認識している。ただ、現状を直視したとき、厳しい状況が刻々と迫っており、それぞれが力を合わせて持続可能な航路で維持しなければいけない。そのような時を迎えている。平成19年度は、一般会計からの繰り出しが1億円、さらに高速船のエンジンの付け替えに5千万円という状況である。平成20年度は約1億9千万円。企業局は必死になって様々な取り組みを行ってきた。</p> <p>赤字路線が競合しているため、航路を維持するためには共同で守って行く必要がある。</p> <p>様々なマイナス要因が重なっている。</p>
委員	<p>誤解があったので、ご理解を頂きたい。江田島市に6社あることが供給過剰と言ったわけではない。フェリー3隻と高速船2隻が供給過剰で効率が悪いということである。中町から高田・三高への連絡が悪いために、他の地区の方が利用できない状況がある。個々の栈橋を見ればまだ足りないが、他の栈橋も利用できるようなになれば、適正な数となるのではないか。また、公の効率が悪く民間が良いということではなく、2つの主体が別々にやっているため、効率が悪いということを申し上げた。3つの栈橋を1つのものとして運営することで、うまくいくことも考えられる。そうした考え方が重要であると申し上げた。</p>
議長	<p>骨子については、利用者増を狙った計画が多いように思うが、こういった案についてはどういうお考えか。</p>
委員	<p>骨子はイメージの世界であるため、何とも言えない。それに基づく個々の施策は、人口増や交流人口増に繋がるものが、交通に限らず必要であると思う。例えば我々は、みかん狩りに来て頂きたいと思い、宣伝・</p>

第4回江田島市公共交通協議会（H21.12.25）

	<p>営業等を行う。ただ、私の知る限り「トイレが汲取り式であるため嫌だ。」という声もある。みかん狩りや芋掘り、バーベキュー、卵拾いを一度にできるところはほかに無い。もっと来て頂ける可能性は秘めているが、トイレのことで断られた例がいくつかある。そうしたところを含め、細かなところも重要である。</p>
議長	<p>女性からバスの休憩場所のトイレの構造に不満があるとの相談を受けたりもしている。運航（運行）をさらに良くするための改善にむけた意見はないか。</p>
委員	<p>私はあくまでコストにこだわらせて頂く。将来的に利用者が増えるなら良いが、昨年の中町～三高間の系統の100円を稼ぐのにかかった経費は3,300円であったものが、今年は23,000円であった。 バスを運行すればお金がかかることを認識して頂きたい。</p>
議長	<p>希望を言うのはたやすいが、それを実現するのは非常に困難を伴う。地域でそれなりの努力も必要であるということである。</p>
委員	<p>バスの昼間の便を増便しても、利用者がバラけるだけである。そしてそれは全て運転手の人数、バスの台数、運転手の労働時間などのコストに跳ね返ってくる。地域で話し合いをするのもいいが、こういったことも自治会などで言ってもらいたい。接続に関しても距離や時間のことがある。全てがうまくいくことはありえない。便利面だけでは進められない。そういった面も考慮して頂きたい。</p>
議長	<p>実際に利用する高齢者の意見などはないか。今回のモデル地区には交通の空白地が上げられており、利用者には女性の高齢者が多いことがアンケートからわかっている。そういった中で昼間、空白のモデル地区が結果上手く出れば利用者のニーズが反映されているのではないかと予測できる。そのあたりは地域住民からすればどうということになるか。</p>
委員	<p>資料にもあるが、通院や買物での利用の要望が挙がっている状況にあるが、提案して頂いた内容でカバーできるのではないかと考えている。バスの乗客が少ないのは確かである。利用者をいかに増やすかということであると思う。船とバスの連絡が悪いというのは気ままではなく、高齢者は5分や3分では乗換えができないという切実な声も聞いている。そのあたりをご理解頂きたい。</p>
議長	<p>これまで挙げてきたモデル地区は、現状では適当な地域であるという指摘である。他に意見は無いか。</p>
委員	<p>江田島バスというのは100円儲けるのに何千円もかけていたのではとっくの昔につぶれていると思うが、ドル箱路線でつじつまを合わせているのか。それとも予算的な支援措置があって運営が成り立っているのか。</p>

第4回江田島市公共交通協議会（H21.12.25）

委員	<p>会社名は江田島バスであるが、歴史的には第3セクターということで市の補助を頂きながら営業している状況である。能美バスと呉市営バスが平成20年3月31日まで実施されていて、全体を網羅する形で引継いでいる。江田島市としては能美バスおよび呉市営バスへの補助という形であった。補助の種類は3種類あり、第1種は国、第2種は県、第3種が市になり、考え方としては1種2種で補填しないところを市ですることである。補填の額は市が一番大きい。小用～大柿高校間、中でも江南まで、37系統のうち6系統が、100円を売り上げるのに100円以下で済んでいる。数値的にはある程度予測された形よりは下降で推移しているように思う。そのままの補填でいけば相当額の補填を市は負担するような状況であった。</p>
委員	<p>連携計画の骨子案はこの通り進め、地域における諸問題は、当面、分科会などで議論等を進めていきながら具体化していくということで良いか。</p>
各委員	<p>（異議なし）</p>
6 その他	
事務局	<p>資料6により説明</p>
7 閉会	